

食生活管理と実習を通して育てられた思考・能力と技術との関連について
岡山大教育 深田貞子 ノートルダム清心女大家政 ○浅田幸子
県立岡山南高 野田昌枝

目的 実践的・体験的学習を特異性とする家庭科教育において、3カ年間の調理実習を通して、学習者の食生活における行動の変化をその家庭生活の営みとの関連において知ろうとするものである。

方法 3カ年間、調理実習を継続学習した同一の学習者とその家族を対象に、日常の食生活における思考、実生活に活用される能力・態度及び習慣形成に関する調査を行い、調理実習を通して育てられた思考・能力及び技術との関連から分析を試みた。

結果 (1) 調理実習過程において、作業参加によって育てられた思考は、現実の食生活のあり方に及ぼす影響の大きいことがみられた。

(2) 各調理操作の中で養われた知識及び技術は、日常の健康管理への適応に深く緊わりをもつことがみられた。

(3) 食生活において、家庭と学習者の関心事ならびに嗜好に相違のあることが認められ、そのことが、生活全体に及ぶ傾向のあることがみられた。

(4) 実習を通して育てられる能力及び態度は、食生活における習慣形成ならびに家庭における人間関係にまで及ぶことがみられ、食生活の営みの基本的要素として科学性の外に、情緒的な面も加わってくることが認められた。